

1. 水産学科への入学者減少の背景

(1)生徒数の減少

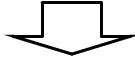
- ・ 中学校卒業者数 S38 : 27,081人→H20 : 7,173人
- ・ 全日制高校志願者数 S38 : 14,287人→H20 : 5,700人 (「しまねの教育」による)

(2)水産業をとりまく状況の変化

- ・ 漁獲量の減少 S61 : 519,391トン→H18 : 109,089トン
- ・ 漁業就業者の減少 S58 : 8,446人→H15 : 4,247人 (本委員会での水産課資料)

(3)生徒の意識や価値観の変容

- ・ 豊かさや自由な生活に慣れたことによる耐性の低下
- ・ ニートやフリーターに象徴される勤労観や職業観の未成熟
- ・ 進学志向、普通科志向の高まり



水産学科の教育内容や学科のあり方が上記の背景を踏まえたものとなっているか

2. 魅力的なカリキュラム(教育内容)

(1)水産業が求める教育内容は何か

<高校で行っていること>

海	海洋、漁業の専門知識技術
	↓
洋	(専攻科)海技士資格の取得
食	食品加工
	+ 浜田 : 流通
品	+ 隠岐 : 栽培漁業

<水産業が求めるもの>

- ・ 現在必要な知識・技術、資格は何か?
- ・ 今後必要になるとと思われる教育内容は何か?

(2)生徒に必要な教育内容は何か

<本科進路状況>

就	水産業関連は 11%程度
職	水産業以外は 47%程度
進	水産系進学は 10%程度
学	非水産系進学は 30%程度

<生徒にとって必要なもの>

- ・ 生徒の進路ニーズに応える教育内容とは?

(3)地域にとって必要な教育内容は何か

＜地域が求めるもの＞

地域の産業振興に寄与する
地域の文化や行事を支える

3. 水産後継者の育成(進路指導)

(1)なぜ水産業に就職する生徒が少ないのか



進路意識調査の分析



(2)水産業への就職を促進するにはどういった進路指導が必要か

(3)受け入れ側として水産業が考えるべきことは

4. 水産学科の意義

(1)コスト比較や財政論から

- ・水産学科（本科、専攻科）にかかる経費をどう考えるか
- ・練習船にかかる経費をどう考えるか

(2)生徒の自己実現を保障するという立場から

- ・生徒が夢を実現するためには多少の出費はやむをえないと考えるか